



グリスアップヘルパー



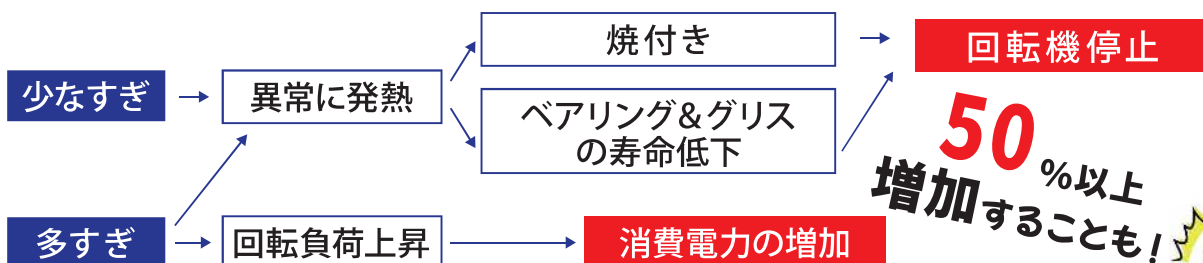
回転機の軸受け音の変化を見える化！

回転機の**グリスの量**は

適切ですか？

これで

適正量を判断できます！



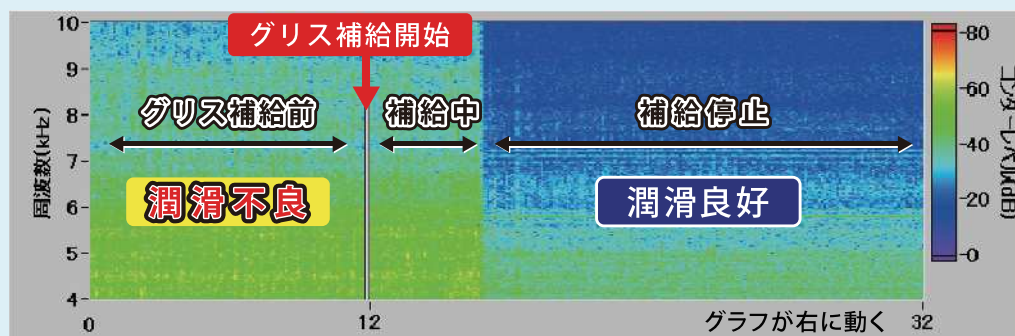
◎デジタル技術で回転音を見える化



◎モニターを見ながらグリス注入

シール式も！

◎グリスの効き具合が目で見える



グリスが馴染むと色が変わります。ここでも補給を止めればOK



概要

動力機械などに使われている部品のベアリングには潤滑油の補給（グリスアップ）が必要な場合があります。

潤滑油の補給は適度に行うことが必要で音の変化を捉えるなど熟練者の勘に頼る作業でした。

グリスアップヘルパーは当社独自の技術により音の変化を画像化して潤滑の不良と良好の状態を非熟練者でも簡単に判断することができます。



復水器の冷却をかしこく制御！ChuPSが設備のエコを支えます！

冷却塔方式 復水器冷却水

“最適” 制御システム

所内で消費する電力のうちムダが大きいものは、
復水器冷却水の補機である

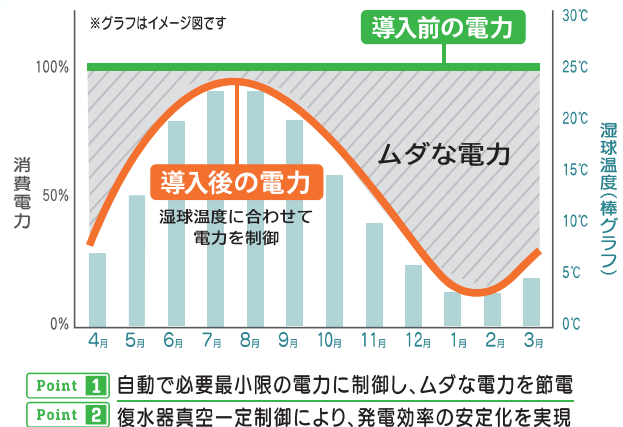
「冷却塔ファン」と「循環水ポンプ」の
電力です。

冷却水補機
電力削減率

76%

達成

お客さま発電設備年間実績（自社設備年間実績73%削減）



発電量 - 所内電力 = 売電量

ムダなく省エネ、しっかり売電。ChuPSで収益アップ！



こちらを
詳しくは
おまかせ



【特許番号 特許 第6887537号、特許 第7079386号、特許 第6937787号、特許 第7453294号】

概要

冷却塔による復水器冷却は、気温や湿度に大きく左右され、発電効率にも影響します。

猛暑に対応した設計のため、季節によっては冷やしすぎとなり、ムダな電力を消費しているケースも少なくありません。

ChuPSは、冷却塔ファンや循環水ポンプをかしこく制御し、ムダな冷却を防いで省エネと効率安定（復水器真空一定）を実現できます。

削減した電力はそのまま売電されるため、収益向上にもつながります。

導入されたお客さまの設備では、復水器冷却にかかる年間電力消費量76%カットし、圧倒的な削減効果を実現しています。





フランジ閉止治具

耐圧試験時のフランジ閉止作業を効率化！

—— Zキャップを使用すると ——



Zキャップ

労働時間
削減！

労働環境
改善！



削減率

95%

1箇所を約200秒 ➡ 約10秒に作業短縮

従来の課題

問題点 1

締付工程がたくさんあるため
手間がかかる

問題点 2

熟練した者が必要となる



導入後の効果

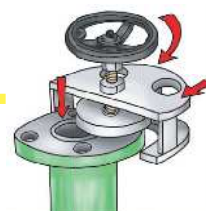


効果 1

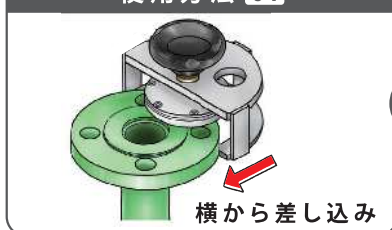
ワンタッチで作業完了！

効果 2

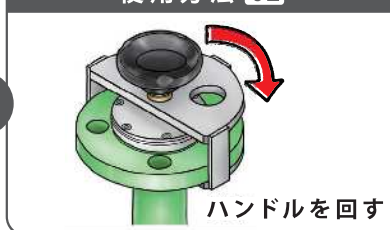
ガスケットがないため、
初心者でも簡単にできる！



使用方法 01



使用方法 02



従来作業に比べ作業効率が

約20倍
向上！

概要

配管の耐圧試験などのフランジ締結作業は、フランジの穴にボルトを差し込み、ナットをねじ込み、ガスケットをずれないように合わせながらボルトを順番に締付けることが必要なため、手間が掛かるだけでなく熟練者を必要とします。当社開発品のZキャップは、サイズに合わせたZキャップをフランジに被せハンドルを締めるだけで作業が完了します。Zキャップを採用頂くことで効率化と熟練者に頼らない作業を実現します。各種の対象流体、フランジサイズに合わせた提案が可能です。





配管縦方向切断装置

配管縦切断作業を効率化！

二代目 半蔵



機械化すると

労働時間
削減！

労働環境
改善！

削減率

85%



16分割を約300分≫約45分に作業短縮

従来の課題

問題点 1

人力による切断のため
非常に時間が掛かる

問題点 2

作業員の負担が掛かる



導入後の効果

効果 1

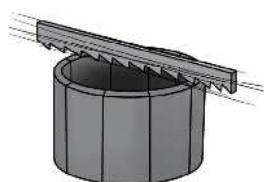
機械による切断のため
短時間で切断できる！

効果 2

スイッチ1つで
OK！



●配管切断イメージ



●切断後のイメージ



従来作業に比べ生産性が

約30倍向上！

半蔵

200～500A

4分割、8分割

二代目 半蔵

500～900A

4分割、8分割、16分割

概要

原子力発電所の廃止措置工事中において廃棄物を再資源化するため除染と放射線検査が必要です。除染と検査の間、隙間を少なく保管をするため、配管は縦方向に真っすぐ切断する必要があります。従来の人力による切断では時間が掛かるだけでなく作業員に負担の掛かる作業でした。当社開発品の半蔵、二代目半蔵は切断を機械が行い、従来作業に比べ生産性は約30倍に向上しました。

中部プラントサービスは廃止措置工事のトップランナーとして、効率化につながる機器を開発していきます。

